

活用事例	③ 授業中に地震・津波が発生した場合の二次避難場所までの避難訓練 【特色】緊急地震速報の活用、崖崩れのため二次避難場所を第二候補へ変更		
学校名	光市立室積中学校		
日時	平成25年11月29日（金） 2・3時間目		
場所	運動場及び千坊台第2公園	参加者	生徒・教職員

## 1 訓練のねらい

- (1) 地震への備えを心がけ、室内での安全確保や津波に対する安全な場所等を把握し、緊急地震速報を見聞きした時に、あわてずに自分の身を守ることができる。 (生徒)
  - ・地震による落下物や転倒、ガラスの破片等の危険から身を守る。
  - ・津波の危険から身を守る。
- (2) 内閣府（防災担当）及び気象庁が行う緊急地震速報の訓練に参加し、緊急時における生徒の安全な避難誘導體制を確認する。 (教職員)

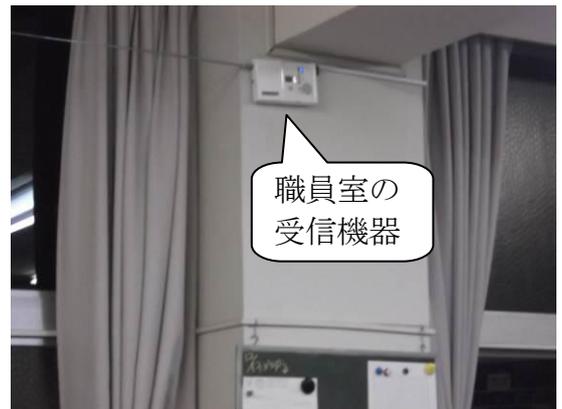
## 2 訓練の概要

- (1) 事前学習（体育館）
  - ① 気象庁ホームページ提供の「緊急地震速報受信時対応行動訓練用キット」により、緊急地震速報について知る。
  - ② 東日本大震災の津波の脅威を映像で知る。
  - ③ 室積に津波が押し寄せた場合、学校周辺の状況を知る。



- (2) 訓練の実際
  - ① 各教室にもどり、担任から、訓練の意義や避難時の行動目標などの再確認。
    - ・無言、迅速、安全の徹底。
    - ・確実な人員把握。

### ② 職員室で緊急地震速報受信



### ③ 緊急放送

「緊急地震速報が発表されました。身の安全を確保してください。」



### ④ グラウンドへ一次避難

「揺れが収まりました。周囲の安全を確認し、グラウンドへ避難してください。」



⑤ 一次避難完了・全員の安全を確認



- 当日は、今シーズンのこれまで一番の寒波のため、健康面から事前の学級指導で防寒着を着用させた。また、校外までの移動のため、下足に履き替えてグラウンドに集合させた。（いざというときは、このような時間はないことも指導）
- 靴への履き替え時、「靴を持って昇降口の外に出て履く」という指示を守り、混雑もなく、避難開始放送から2分40秒で一次避難の人員点呼を完了した。

⑥ 津波の警報発令・二次避難開始

「津波警報が発令されました。高台に避難してください。」



- グラウンド裏手の高台に向かう。
- 先行の教職員が、避難経路の安全確認。

⑦ 避難経路の安全を確認し移動



- 先行の教職員より避難経路の状況報告。

※ 光寿苑（二次避難第1候補）方面に崖崩れあり。したがって、千坊台（二次避難第2候補）方面に避難誘導する。



⑧ 千坊台第2公園に二次避難完了



- 避難訓練の講評と緊急時に対する心構えについて再確認。

### 3 訓練の成果と課題

今回の訓練では、緊急地震速報による場合を想定したが、この緊急地震速報が「地震の発生直後に、震源に近い地震計でとらえた観測データを解析して震源や地震の規模（マグニチュード）を直ちに推定し、これに基づいて各地での主要動の到達時刻や震度を予測して、可能な限り素早く知らせる予報や警報」であり、震源地からの距離により、自分が地震を感じる前に流れるということを知らず、地震を感じた時に、このような情報を得るものだと思っていた生徒が多かった。このことを知ったこととともに、地震を直接感じない場合でも、速報が出された場合、身の安全を確保することが必要であるということを知ることができたことが一番の成果であった。

今回は、学校にいる場合の訓練であったが、学校以外の場所で災害に遭った場合、その場で的確に判断し、迅速に行動することができるよう、様々な場面を想定しての避難方法を指導する必要があると感じた。また、このような場合の避難後の家族等との連絡方法についても、PTAと連携して、全家庭において確認していただくことを周知していかなければならない。